

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業
第3期中期計画フォローアップ（令和3年度実績）
【政策研究大学院大学・科学技術イノベーション政策研究プログラム（GiST）】

2022.5.12

1. 令和3年度における活動の概要

（総括）

令和3年度において、①人材育成に関し、博士課程、修士課程及び履修証明プログラムからなる教育プログラムを実施し、計画以上の受入・受講・修了者数となった。②研究・基盤に関し、外部からの科研費等の研究費を得て研究を実施した。③共進化に関しては、共進化実現プロジェクトの研究を実施した。また、④ネットワーキングに関しては、サマーキャンプへの参加、GiSTセミナーの開催等を行った。

①人材育成

（活動の概要）

・科学的アプローチを用いて、科学技術イノベーション政策や戦略の企画・立案・実行、評価、修正の実務を行うことができる高度専門職業人や、科学技術イノベーション政策に関する高度な研究能力を有する研究者を育成するため、前年度に引き続き教育プログラムを実施した。令和3年度に、修士課程（1年制）1名、令和2年度に新設した夜間・土曜日の授業を中心とする修士課程（2年制）9名、博士課程9名の学生を受け入れた。また、令和3年度に修士課程7名、博士課程2名が修了した。

・働きながら修学したいとのニーズを踏まえ、昨年に引き続き、6月～8月に履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を開講（コロナ禍でオンライン開講）し、22名が受講し、20名が科目履修生として修了した。また、厚生労働省が実施する教育訓練給付制度に申請し、「特定一般教育訓練給付制度」の対象講座に指定された（2022年度～2024年度）。これにより、一定の要件を満たす者が対象講座を受講し修了した場合に、本人が支払った受講費用の40%（上限20万円）が申請によりハローワークから支給される。

・従来と同様に、中央省庁、研究開発法人、地方自治体、公設試験研究機関等にプロモーション活動を行った。広報活動の成果もあり、令和4年度の入学予定者については、修士課程は、2年制7名、1年制1名の計8名（うち2名は履修証明プログラム受講者）を得た。博士課程については、日本人4名に加え、留学生等2名の入学を予定している。

・コアカリキュラム編集委員会については、委員長として有本建男客員教授が、委員として飯塚倫子教授（ワーキンググループ主査）、隅藏康一教授が参加し、SciREX 事業第三期前半2年の活動スケジュールの作成、新規コンテンツ4件の原稿執筆依頼、コアコンテンツの活用促進と改訂のあり方の検討、令和4年度の各拠点教育プログラムの授業での活用と

教員、学生へのアンケート実施に向けた検討を行った。

・学生調査については、教育プログラムの改善に資する情報収集に向けて、現役学生（博士課程 3 名、修士課程 4 名）を対象としてインタビュー形式での調査を行った。なお、調査結果の取りまとめは東京大学（STIG）が行った。

・各拠点の学生及び拠点の教員等が参加するサマーキャンプを 9 月 3 日から 5 日にかけて、新型コロナウイルス感染症流行状況を鑑み、オンラインにより実施し、学生 53 名を含む 105 名が参加した。GRIPS が幹事校、一橋大学（IMPP）が共同幹事校となり企画、実施を行った。GiST からの参加教員は 3 名、参加学生は 10 名であった

（KPI の達成状況）

- ・受入数：博士 9 名、修士 10 名 [計画：博士 2～3 名、修士 3～5 名]
- ・修了数：博士 2 名、修士 7 名 [計画：博士 1～2 名、修士 3～5 名、]
- ・短期プログラム受講生数：22 名 [計画：15 名程度]
- ・サマーキャンプへの GRIPS からの参加学生数 10 名 [計画：5～8 名程度]

②研究・基盤

（活動の概要）

・GiST 教員が外部からの研究費を得て研究を実施した。具体的には、科学研究費助成事業による「研究力が低成長・縮小する時代における科学技術政策の在り方の実証的分析」（研究代表者 林隆之教授）、「Technology Strategies and Upgrading of Southeast Asia's Automotive Industry in Disruption Era」（研究代表者 INTARAKUMNERD, Patarapong 教授）、「大学の研究資源獲得と研究成果創出・社会還元に関する決定要因の分析」（研究代表者 隅藏康一教授）、JSPS の国際共同研究事業 英国との国際共同研究プログラム（JRP-LEAD with UKRI）による「ワクチンのためのイノベーションと補完的能力」（日本側研究代表者 飯塚倫子教授）などの研究を実施した。

（KPI の達成状況）

- ・外部資金（科研費、委託研究費等(新規+継続)）件数：4 件 [計画：2～3 件程度]

③共進化

（活動の概要）

・共進化実現プロジェクトの研究に関しては、GiST 所属の教員を研究代表者とする共進化実現プロジェクトを 2 件（「研究開発プログラムの開発・評価に資するエビデンス構築の研究」（研究代表者：林隆之教授）、「レジリエントな産学連携とイノベーション・システムのためのエビデンスの収集と分析」（研究代表者：隅藏康一教授））実施した。また、プロジェクトにおいて行政官との協働を進めた。

・GiSTによる研究成果の政策形成プロセスへ提供の代表的な事例として、林教授がR2年度まで実施の共進化実現プロジェクト「研究力向上に向けた新たな測定指標の開発」を踏まえて、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会(2022年1月28日)において人文・社会科学における研究評価の課題について報告を行った。また、隅藏教授が、文部科学省産業連携・地域振興課の求めにより、令和3年度「文部科学省委託事業「大学等における産学連携等実施状況に関する調査」アドバイザーボード会議」の委員長を務め、共進化実現プロジェクトにおいて得られた知見を活用して、「産学連携実施状況調査(令和2年度実績)」の設計・実施についてアドバイスを行った。その他に、各教員が複数の政府審議会等に参加して、これまでの研究蓄積を踏まえて発言を行っている。

(KPIの達成状況)

共進化実現プロジェクト(件数):2件[計画:2件]

④ ネットワーキング

(活動の概要)

- ・各人材育成拠点で提供している講義等の基礎的な情報をコアコンテンツも利用しながら体系的に整理した。
- ・サマーキャンプを9月3日から5日にかけてオンラインにより実施されサマーキャンプにGiST教員3名、学生10名が参加した。
- ・破壊と包摂のイノベーション(Distruptive, Inclusive Innovation: DII)を統一的テーマとしたGiSTセミナーを3回開催するとともに、GiSTウェブサイト、facebookなどのSNS等でGiSTの教育研究活動やイベント等の最新情報の提供に努めた。
- ・デジタルトランスフォーメーション(DX)による科学技術イノベーション政策への影響について深く理解するため、GiST教員、在学生、履修証明プログラムの修了生等の有志からなるDX政策勉強会を開催し、講師による講演の実施、参加者による関連の論文のレビュー等を行った。

(KPIの達成状況)

- ・サマーキャンプについては①の記載参照[計画:5~8名程度]
- ・サマーキャンプへのGiSTからの参加教員数:3名[計画:3~5名程度]
- ・GiSTセミナー開催回数:3回[計画:2~3回程度]
- ・修了生の修了生ネットワークへの参加者数:Facebook登録者数 59名(在学生含む)

⑤ その他特記事項

特になし。

2. 事業終了を見据えた計画に対する進捗状況

補助事業終了後も「科学技術イノベーション政策」の修士課程・博士課程を維持するために必要な教職員等の体制の確保に努めた。また、令和3年度に続き、令和4年度も短期履修証明プログラムを継続している。特に短期履修証明プログラムに関しては、厚生労働省への申請により、「特定一般教育訓練給付制度」の対象講座に指定され(2022年度～2024年度)、一定の要件を満たす者が対象講座を受講し修了した場合に、本人が支払った受講費用の40%(上限20万円)が申請によりハローワークから支給されることとなった。これにより、同プログラムの受講者の安定的な確保につながる事が期待できる。

3. 中期計画の見直しのポイント

該当なし